

みず べ あつ い もの 水辺に集まる生き物

水辺には魚や水鳥だけでなく、昆虫や両生類・爬虫類など多くの生き物が集まります。
水辺は、小動物たちにエサ場・隠れ家・産卵場などの環境を提供しています。



オニヤンマ
オニヤンマ科

日本最大のトンボで、ナワバリを作り、進入してくる昆虫などを追い払います。(時には人間にもぶつかってくる。)ヤゴは山間の細い流れの中に生息します。



シオカラトンボ
トンボ科

都会の水辺でも普通に見られるトンボで、成熟したオスと一部のメスは塩をふいたように白くなるので、この名があります。



アキアカネ
トンボ科

初夏に羽化して夏の間を山で過ごし、秋に平地に降りてきます。昔は田んぼや池沼で普通に見られましたが現在は激減しています。



アメンボ
アメンボ科

水の上を忍者のように歩く水生昆虫です。主に水面に落ちた昆虫の体液を吸って生きています。身体から甘いアメの匂いをする、といひます。



ヒメゲゴロウ
ゲンゴロウ科

付近の池で普通に見られるゲンゴロウの仲間で、1cmほどの大きさです。脚が平べったく船の櫂のように動くので泳ぎの名人です。



ヤマカガシ
ナミヘビ科

水辺や田んぼなどで見られる大人しいヘビですが、奥の牙に毒があるため、もし噛まれたら早急に病院に行きましょう。



アマガエル
アマガエル科

田んぼや池周辺、森林など、最も普通に見られる3cmほどの小さなカエルです。体色は住んでいる環境によって変化します。

! 特定外来生物



ウシガエル
アカガエル科

今や日本全国で見られるようになったが、元は「食用ガエル」として北米から導入された、体長最大20cmにもなるカエルです。口に入るものなら何でも食べるので、日本に古くからいる小動物の生息がおびやかされています。